

2022年5月11日

各位

会社名 ソーシャルワイヤー株式会社
 代表者名 代表取締役社長 庄子 素史
 (コード番号: 3929 東証グロース)
 問合せ先 経営企画部長 岩田 夏希
 (TEL. 03-5363-4872)

**2022年3月期連結業績と前期実績との差異並びに
 剰余金の配当(無配)に関するお知らせ**

2022年3月期の連結業績(以下、当期連結業績)と、2021年3月期の連結業績(以下、前期連結業績)との差異について下記のとおりお知らせいたします。当社は2022年3月期の連結業績予想を開示していないため、前期連結業績との差異の説明を行うものです。

また、2022年5月11日開催の取締役会において、2022年3月31日を基準日とする剰余金の配当を無配とすることを決議いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 当期連結業績と前期連結業績との差異について

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失(△)	1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失(△)
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前期連結業績(A)	4,566	125	109	△143	△23.83
当期連結業績(B)	4,630	164	137	28	4.79
増減額(B-A)	64	38	28	172	28.62
増減率(%)	1.4	30.9	25.8	—	—

2. 差異の理由

当期連結業績につきまして、デジタルPR事業の各サービスにおいて新型コロナウイルス感染拡大による影響がありながらも着実に販売拡大を推進したことに加え、シェアオフィス事業においては、海外拠点は統廃合による売上減があったものの、2021年1月に「クロスコープ横浜」拠点、2022年1月に「クロスコープ日本橋」拠点を新規開設したことによる国内拠点の売上拡大もあり、連結売上高は上記の通りとなりました。

利益面においては、新拠点(横浜、日本橋)開設に伴い地代家賃及び減価償却費が増加したものの、デジタルPR事業での売上伸長及び生産性向上により営業利益、経常利益は増加しました。また、前期において、主に海外拠点の撤退に係る減損損失を323,479千円計上したこともあり、親会社株主に帰属する当期純利益は前期連結業績より増加いたしました。詳細につきましては、本日発表の「2022年3月期決算短信〔日本基準〕(連結)」をご参照ください。

3. 剰余金の配当について

(1) 配当の内容

	決定内容	直近の配当予想 (2021年5月10日公表)	前期実績 (2021年3月期)
基準日	2022年3月31日	同左	2021年3月31日
1株あたり配当金	0円00銭	未定	2円50銭
配当金総額	—	—	15百万円
効力発生日	—	—	2021年6月18日
配当原資	—	—	利益剰余金

(2) 理由

当社の利益配分につきましては、将来にわたる安定的な企業成長と経営環境の変化に対応するために必要な内部留保を図るとともに、「連結配当性向30%を目標とした持続的な配当拠出」をすることを中長期的な還元方針としております。

2022年3月期の期末配当につきましては、1年半にわたるシェアオフィス事業の統廃合、デジタルPR事業での生産性改善等の施策の実施により黒字着地できたものの、当期純利益の水準は未だ低く、現時点では内部留保を優先し、新たな経営方針の下、付加価値向上に向け適切に投資することが適当と判断し、配当については見合わせることにさせていただきます。

以上